

第1回町民ワークショップ

日 時 令和元年7月25日(木)

場 所 ・文化会館小ホール
・水堀コミュニティセンター

参加者 65名【水堀会場25名(町民16名、町職員9名)
【文化会館40名(町民23名、町職員17名)】

『10年後も夢や希望を持って住み続けられるまち』をテーマに、第1回目の「町民ワークショップ」を開催しました。町民約40名と北海道教育大学函館校の学生にご参加いただき、「活力あるマチ」「安心して暮らせるマチ」という観点で、「こうありたい、こうあってほしい」といった将来のマチの姿について話し合いを行いました。

今回出された貴重なご意見・アイディアは、次回のワークショップにおいて具体的に「実現するための方策」を検討するとともに、「自分たちに出来る事」「役場が担うべき事」「官民連携できる事」を話し合う予定です。第1回目に参加されなかった方や中学生・高校生など多数のご来場をお待ちしています！(次回ワークショップは、8月下旬を予定しています。)

各会場で出された意見については
次のページからご覧ください。

文化会館

『活力あるマチとは』 Aグループ

スポーツ

- ・生涯スポーツができる環境づくり
- ・健康づくりにつながる
- ・体育館がほしい
- ・体を動かす場がある

子ども

- ・子どもたちが安心して外で遊べる
- ・子育て世代に優しい

飲み屋

- ・飲み屋がある
- ・花街
- ・深夜にラーメンを食べられるところ
- ・新地にお店を増やす

人材育成

- ・職人の減少
- ・海外からの人材
- ・人材育成
- ・興味を持ってもらい移住
- ・江差に定住してもらえるよう呼び込む
- ・SNSを利用

文化

- ・発信力
- ・芸能文化
- ・江差追分
- ・文化活動
- ・「本物」の発信
- ・個性の発信

観光

- ・職業体験そば打ち等
- ・かもめ島追分ツアー
- ・道の駅が充実
- ・観光客がもっとたくさん来る
- ・たば風体験ツアー
- ・お金を使わせる
- ・町民の森のヒバを見る機会が無い
- ・町民の森の活用
- ・山歩き

交通

- ・お年寄りが買い物しやすい環境
- ・町内のお店を回ることができるバス等をつくる
- ・車がなくても困らない環境
- ・巡回バス

漁業

- ・加工場を作り特産品をつくる
- ・栽培漁業で活力

イベント

- ・いろんな所で夜市
- ・町民が交流できるイベント

若者

- ・若い人が働く場
- ・個室があるカラオケ店
- ・若者がたくさんいるまち
- ・人がたくさん歩いているまち
- ・職員を巻き込んだ町民の若いグループ

文化会館

『活力あるマチとは』 Bグループ

拠点づくり

- ・お金をかけなくてもできることがある
- ・寄来所のふれあいサロンをもっと使ってほしい
- ・寄来所での活動
- ・寄来所の寺子屋もっと町民に知られてほしい
- ・空いた施設を活用して普段から交流の場をつくる
- ・元カネマツの活用
- ・道の駅をうまく使う
- ・横と縦と両方のつながり
- ・まち・人に対する関心
- ・社会科見学を増やす
- ・サークル活動できる場をつくる
- ・大きいスクリーンでゲーム大会
- ・世界旅行をしたことがある人の話を聞く
- ・祭りには絶対に江差にくる
- ・人と人のつながりが強い

教育分野

- ・祭りに戻ってくる人は江差にいたいと思っている
- ・追分の聞ける居酒屋が増えてほしい
- ・三笠の高校生レストラン(仕事を体験しながら学ぶ)
- ・学生が自分で職をつかめる
- ・人をたくさん残す
- ・子どもがたくさん産まれてほしい
- ・若い人が江差に増える
- ・高校に江差ならではの科目をつくる(民謡など)
- ・進学目的がはっきりしていない人が多い
- ・町の人が江差のことをもっと知る
- ・飲みながら踊れる場所
- ・郷土芸能の時間を増やす

観光

- ・横山家の活用
- ・廻船問屋
- ・かもめ島にエレベーター又はロープウェイの整備
- ・町外への情報発信
- ・トイレが少ない
- ・駐車場を増やす
- ・郷土芸能を見る場所のPR
- ・おみやげのPR
- ・先生方も観光施設を見てほしい
- ・江差ファーストではなく檜山全体を引っ張っていく
- ・観光の魅力を上げる

食

江差の食といえば何か
北海道といえば魚介のイメージ
観光客にお勧めできる店がたくさんあるといい
紅ズワイガニを食べられる場所
ウニを増やすために海藻を増やす
農産物がたくさんとれてほしい
魚がたくさんとれてほしい
海産物は外に出ている
1番は畜産
江差ブランドをつくる(ニシンなど)
煮しめや豆付、三平汁がおいしい

花

- ・ひまわりなどの大きな花畑
- ・個人宅の花壇でも大きくなれば観光地になる
- ・いにしえ街道の傾斜地に芝桜
- ・季節ごとの花(あじさい等)
- ・江差の空き地で趣味コンペを開く

文化会館

『活力あるマチとは』 Cグループ

魅力

- ・明治維新と関わりのある事業
- ・魅力ある素材づくり
- ・北海道は歴史のある街
- ・日本一の夕日の街を活かす
- ・かもめ島の景観を観光に活かす
- ・ミニ水族館
- ・レトロ商店街の活性化
- ・大勢で食事する

祭り

- ・姥神大神宮渡御祭について参加が多くきたいと感じる
- ・自然・文化・祭りの観光
- ・千人パレードで千人を目指す

産業

- ・イカなど水揚量の増加
- ・養殖漁業による江差の名産
- ・にしんの活用化

宿泊施設

- ・景観を活かした宿泊施設
- ・宿泊施設の満足度を上げる
- ・文化施設を活用した宿泊施設
- ・宿泊施設の充実
- ・古民家を活かした宿泊施設
- ・空き家の利活用
- ・田舎の不動産から購入しない
- ・不動産が動く

心

- ・おもてなしの心の観光
- ・観光で訪れた人に対する心づかい
- ・外部から受入（アットホーム）
- ・笑顔を大事に
- ・移住してきた人に対する心づかい
- ・あいさつをする
- ・個人の能力を活かす
- ・欲を出さず汗を出す
- ・人と人のつながり
- ・交流を活発に
- ・それぞれができることをできるだけやる

スポーツのまち

- ・プロスポーツチームの凱旋試合
- ・スポーツ大会の誘致
- ・スポーツを気軽に楽しめる環境
- ・スポーツ合宿の誘致

その他

- ・担い手の仕事づくり
- ・若い人がいること

文化会館

『安心して暮らせるマチとは』 Cグループ

コミュニケーション

- ・話し相手
- ・仲間づくり
- ・よろず相談
- ・相談できる人がいる
- ・お互い様の気持ち
- ・みんなが知り合い(仲間の町)
- ・個人食から会食へ

ネットワーク

- 趣味のネットワークづくり
- 町民連絡網をつくる
- 居場所づくり
- 町内会で身近な人を大切にする活動をする
- 老人の見守り充実
- 各地域でのコミュニティの場
- イベントによるつながりつくる
- 近所の見回り合い

医療

- ・総合病院があると便利
- ・ホームドクターがいる町
- ・夜間のドクターヘリの飛行

活力

- ・楽しいことが活力になる
- ・楽しいことを考える
- ・高齢者の役割を考える
- ・高齢者の余暇の充実

買い物

- ・買い物する場所
- ・近くにスーパーがあってほしい
- ・買い物するお店が近所にあってほしい
- ・愛宕商店街の存続を考える
- ・ドローン宅配

文化

- ・祭りの存続を考える
- ・自給自足できる町

交通

- ・買い物、通院等の交通問題
- ・移動手段がない
- ・2次交通の充実
- ・交通機関の充実
- ・夜間のタクシー不足
- ・タクシー券の範囲を広くする
- ・バスの本数を増やしてほしい
- ・タクシー券の半額券の配布

子育て

- ・子育てしやすい環境
- ・子どもたちが遊べる室内広場

その他

- ・除雪対策
- ・空き家整備、利用
- ・継続して働ける場所

水堀コミュニティセンター

『活力あるマチとは』 Aグループ

観光

- ・観光メニューが弱い
- ・立体的な町の活用
- ・新地からかもめ島までゴンドラを
- ・南埠頭の活用
- ・海のトンネルの整備
- ・かもめ島の整備
- ・観光資源を活かせていない
- ・外資をホテルへ
- ・奥尻町を活かす
- ・観光案内板等を外国人にも分かるようにする
- ・かもめ島上の花月を解体し休息施設を造る
- ・地形が豊か
- ・江差の夕日をアピール(太平洋側の方が見られない)
- ・郷土芸能の発表の場を
- ・かもめ島上部に老人、車椅子でも上げられる工夫

産業

- ・農福連携
- ・漁業の元気がない
- ・名産物を生み出す
- ・高齢者が集まって米を作る
- ・農業が厳しい
- ・江差ブランドの価値を再認識
- ・育てる漁業の推進
- ・生産力の拡大
- ・農業はおもしろい
- ・農地の無償化

子育て

- ・子どもが遊べる場所
- ・小・中学校から交流する
- ・冒険できる子どもの遊び場
- ・若者の元気がない

人の流れ

- ・空き店舗を活用(町外の人をいれる)
- ・起業家の誘致
- ・新しい人の流れをつくる
- ・空き家のコンドミニアム
- ・雇用を生む

中心市街地の活性化

- ・新地が元気になってほしい
- ・柳崎を第2の新地町化へ
- ・店がなくなってきている
- ・いにしえ街道に食の場をつくる
- ・さみしい町になった
- ・いにしえ街道はもっと良くなる
- ・地元にお金を落とす仕組みづくり
- ・歩行空間の整備

その他

- ・マンパワーが減少(IT技術で補う)
- ・テレワーク
- ・チャレンジする人の支援
- ・後継者問題
- ・福祉分野の人の活用

水堀コミュニティセンター

『安心して暮らせるマチとは』 Bグループ

子育て環境が充実した町

- ・安心して遊べる屋内施設の整備
- ・子どもたちが安心して遊べる場所がある町
- ・子どもたちの多い町
- ・学校がなくなると地域が衰退する
- ・修学の場所

医療環境が充実した町

- ・医療の充実
- ・訪問看護の充実
- ・往診の充実
- ・病院が存続している事
- ・地元の病院ではなく函館方面の病院に通う要因を考える

鳥獣対策

- ・熊肉の活用
- ・熊、鹿被害対策
- ・動物被害をなくす
- ・人に被害をおよぼす動物を駆除し、住みよい環境にする

働ける町

- ・檜山振興局の存続
- ・働く場所のある町
- ・職場の確保
- ・町内の仕事の紹介を町として周知する

高齢者

- ・高齢者や車のない家庭の移動手段の確保
- ・運転免許証の返納をしやすい環境整備

各料金の緩和

- ・水道料金が高い(見直し)
- ・介護保険料が高い
- ・諸税が高い
- ・今以上に税金が上がらないこと

その他

- ・農産物の直売所をつくる
- ・生活用水の改善
- ・北部地域の浄化槽設置
- ・山菜を商品で出す
- ・住民からの要望は速やかに対処してほしい
- ・万が一のときに備えて対策をする
- ・空き家対策
- ・情報発信の強化
- ・悪い人がいない町
- ・つながりのある町
- ・北部地域に備蓄品を集めるビル等の整備
- ・町民農園の企画
- ・市内と農村の交流対策
- ・役場職員の大幅な増員

全体を通して（意見の傾向等）

全体を通して「人」が大きなキーワードとなっていました。人の流れ・人と人とのつながり・笑顔・心などについて、両会場、両テーマ共通して数多くの意見が出されていました。

また、人口減少や少子化・超高齢化社会に対応した交通体系や子育て環境についての意見も多くありました。

テーマごとの主な意見を次のとおりまとめました。

皆様が感じた各グループのまとめはいかがでしたでしょうか？

ぜひ第2回目の町民ワークショップでご意見をお聞かせください。

活力あるマチのために

- 安全・安心（子ども・高齢者・障がい者）
- 超高齢化社会に対応した交通体系
- 健康志向への対応（いつでも、誰でも）
- スポーツ環境の整備
- 夜の繁華街の活性化
- 外貨を稼ぐ
- かもめ島を最大限活かす施策
- 本物の歴史・文化（文化財・祭り）

安心して暮らせるマチのために

- 安全・安心（子ども・高齢者・障がい者）
- 人と人とのつながり
- 超高齢化社会に対応した交通体系
- 空き地、空き家、空き店舗の有効活用
- 医療環境の充実
- 働く場所の創出
- 職員の資質向上